

電気ケトル
OB-SYK08

取扱説明書

保証書

温度調節ケトル
白湯里
さ ゆ り



もくじ

安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
お手入れ	14
故障かなと思ったら	16
仕様	18
部品・消耗品	18
保証とアフターサービス	19
保証書	20

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この製品を安全に正しくお使いいただくために、お使いになる前に
この取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
お読みになった後は、お手元に置いて保管してお使いください。
この取扱説明書の内容は改善のため、予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

— 必ずお守りください —

ここに示した注意事項は、お使いになるかたや他のかたへの危害と財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。お使いになる前によくお読みになり、記載事項を必ずお守りください。

表示の説明



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負う、または物的損害が発生することが想定される内容です。

図記号の説明



禁止(してはいけない内容)を示します。



強制(実行しなくてはならない内容)を示します。



警告

本製品の取り扱いについて



分解禁止

分解・修理や改造を絶対に行わない
発火・感電・けがの原因になります。
修理は、お買い上げの販売店またはシロカサポートセンターにご相談ください。



禁止

子ども・取り扱いに不慣れな人・補助を必要とする人だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使わない
やけど・感電・けがの原因になります。操作できる人が必ず付き添ってください。



水ぬれ禁止

本体の底部や電源プレートを水につけたり、水をかけたりしない
ショート・感電の原因になります。



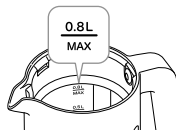
接触禁止

注ぎ口に触れたり、手や顔を近づけない
やけどの原因になります。特に乳幼児には触れさせないように注意してください。



禁止

満水目盛(MAX 0.8 L)以上の水を入れない
湯がふきこぼれて、やけど・感電・けがの原因になります。



禁止

ふたを開けたまま使わない
湯沸かし中は、ふたを確実に閉めてください。ふたを開けたまま使うと蒸気が漏れ、湯が流れ出てやけどの原因になります。



禁止

注ぎ口をふきんなどでふさがない
湯がふきこぼれて、やけどの原因になります。



禁止

本体を抱きかかえたり、傾けたり、ゆすったり、上下に勢いよくふったり、ふた(ふた開閉つまみ)を持って移動や排湯をしない
湯がふきこぼれて、やけど・感電・けがの原因になります。



禁止

本体を転倒させない
故障の原因になります。



禁止

給湯ロックボタンをロック状態にしても傾けたり倒したりしない
湯がこぼれて、やけどの原因になります。



ふたは確実に取り付ける
倒れたときに湯が流れ出て、やけどの原因になります。



禁止

電源プレートを落としたり、衝撃を加えたりしない
感電・故障の原因になります。



禁止

本体の底部や電源プレートの接続部(金属部)にピンなどの金属片やごみを付着させない
感電・ショート・発火の原因になります。



禁止

ガス火にかけたり、電気ヒーター・IH調理器・電子レンジなどで使わない
火災・熱による変色・変形・故障の原因になります。

警告



水以外のものを入れたり、沸かしたりしない

湯沸かし以外の目的では使わないでください。牛乳・紅茶・酒・スープなどを入れて使うと、泡立って内容物がふき出してやけどの原因になります。また、ピンやカップ・レトルトパックなど液体以外のものを入れて使うと、故障・汚れ・焦げつきの原因になります。



氷を入れて保冷用に使わない

冷たい水や氷を入れると結露が生じ、感電・故障の原因になります。



子どもが本製品で遊ぶことがないように注意する

やけど・感電・けがの原因になります。



ふたを勢いよく閉めない

蒸気によるやけどの原因になります。



製品に異常が発生した場合は、すぐに使用を中止する

製品に異常が発生したまま使用を続けると、発煙・発火・感電・漏電・ショート・けがなどの原因になります。

<異常・故障例>

- ・電源コードや電源プラグがふくれるなど、変形・変色・損傷している
- ・電源コードの一部や電源プラグがいつもより熱い
- ・電源コードを動かすと通電したりしなかったりする
- ・本体がいつもと違って異常に熱くなったり、焦げ臭いにおいがする など

上記のような場合は、すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはシロカサポートセンターに点検・修理を依頼してください。

電源コード・電源プラグについて



ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない

ぬれ手禁止

感電・けがの原因になります。



電源コードが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない

感電・ショート・発火の原因になります。



電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

電源コードや電源プラグを以下のような状態で使うと、感電・ショート・火災の原因になります。傷つける、加工する、無理に曲げる、高温部に近づける、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、挟み込む、束ねる など



コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱・発火・火災・感電・故障の原因になります。



電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因になります。



電源コードが破損した場合、コードの交換は危険を防止するために、お買い上げの販売店またはシロカサポートセンターに点検・修理を依頼する

感電・ショート・発火の原因になります。



電源プラグの刃および刃の取り付け面に付着したほこりはふき取る

ほこりが付着していると、火災・感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く

感電やショートによる発火の原因になります。



電源が切れていることを確認してから、電源プラグを抜き差しする

けがの原因になります。



お手入れをするときは必ず電源プラグをコンセントから抜く

やけど・感電・けがの原因になります。



本体の底部や電源プレートの接続部(金属部)に触れさせない

感電・けがの原因になります。特に乳幼児には触れさせないように注意してください。

⚠ 注意

使用上の注意事項



不安定な場所や熱に弱い敷物の上では使わない

火災の原因になります。以下のような物の上では使わないでください。
じゅうたん・ふとん・畳・テーブルクロス・プラスチックの置台 など



壁や家具の近くでは使わない

蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。



ストーブやガスコンロなど熱源・火気の近くやIHクッキングヒーターの上では使わない

変形・故障の原因になります。



水のかかりやすい場所や、本体の底部がぬれるような場所に置いて使わない

水ぬれ禁止

ショート・感電・故障の原因になります。



湯沸かし中や湯沸かし後しばらくは、高温部(注ぎ口・ふた・本体・本体接続部など)に直接触れない

接触禁止

高温のため、やけどの原因になります。



ふたを外すときは出る蒸気に触れない

禁止

やけどの原因になります。



専用の電源プレート以外は使わない

電源プレートは他の機器に転用しない
発火・故障の原因になります。



湯沸かし中は、本体を移動しない

湯が流れ出たり、蒸気に触れたりして、やけどの原因になります。



湯沸かし中は、湯を注がない

湯がふきこぼれ、やけどの原因になります。



空だきをしない

水が入っていない状態で通電すると、故障の原因になります。



お手入れは冷えてから行う

高温部(注ぎ口・ふた・本体・本体接続部など)に触れ、やけどの原因になります。



続けて使用するときは、ふたや本体が冷めてから湯沸かしを行う

ふたや本体が熱くなるのでご注意ください。
やけどの原因になります。

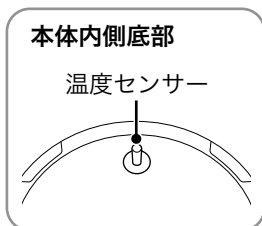
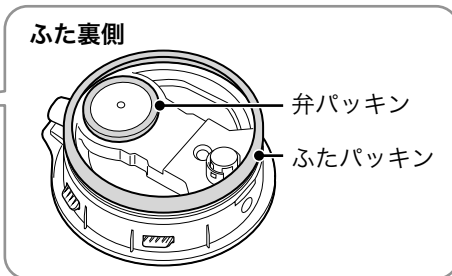
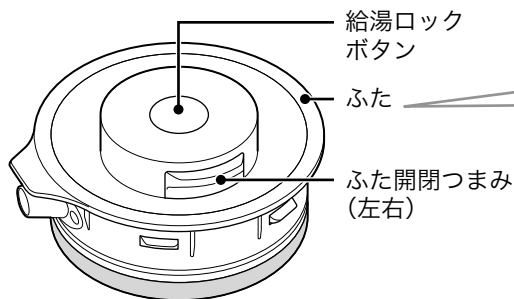


使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く

プラグを抜く

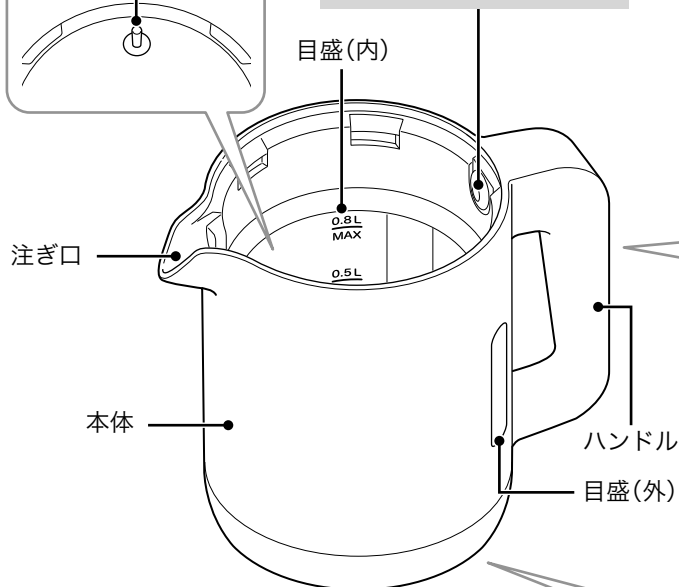
使用後は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。外出するときや長期間使わないときは、電源プラグを抜いていることを確認してください。絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。

各部のなまえ



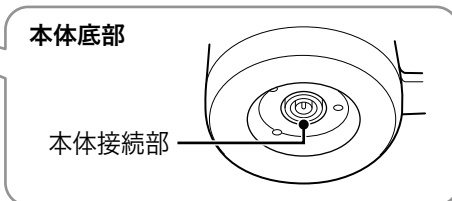
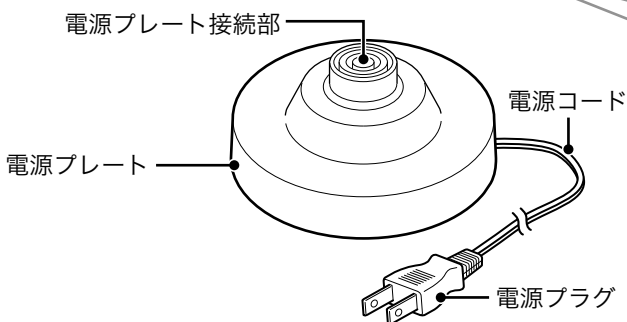
蒸気パッキン(取り外さない)

⚠️ 取り外すと蒸気が漏れ、故障の原因になります。



▶ 転倒時湯もれ防止機能の働き

この製品には、転倒時湯もれ防止機能がついています。万一転倒したときに、ふた内のおもりが弁となり、湯もれをおさえる構造です。湯を注ぐときや、ふたを開閉するときの“カラカラ”という音は、おもりが動く音ですので故障ではありません。

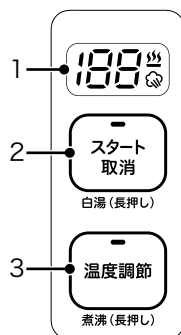


おしらせ

- この製品は、ケトル本体と電源プレートのセパレート式になっています。
- 空だきをすると、空だき防止機能が作動して、ヒーターの加熱を一時的に停止します。 12ページ

各部のなまえ

操作部



名称	説明
1 表示部	設定温度・水温・保温時間などが表示されます。 🔥 (保温マーク)：保温中に点滅します。 💧 (煮沸マーク)：白湯モード・煮沸モード中に点灯します。
2 スタート/取消 ボタン・ランプ	短押し：水を沸とうさせます。(沸とうモード) 長押し：2回沸とう(カルキ抜き)させた後、5時間後に設定温度まで再加熱し、そのまま5時間保温します。 (白湯モード) ランプ：加熱中は点滅、保温中は点灯します。
3 温度調節 ボタン・ランプ	短押し：設定温度まで加熱し、そのまま5時間保温します。 沸とうはさせません。(温度調節モード) 白湯モード・温度調節モード・煮沸モード中に押すと、設定温度を変更できます。 長押し：2回沸とう(カルキ抜き)させた後、設定温度で5時間保温します。(煮沸モード)

点灯と消灯について

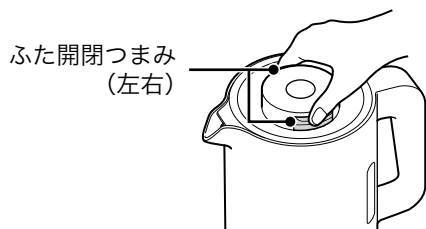
運転中以外、水温が表示されている状態で何も操作をしないと約60秒で表示が消えます。もう一度ボタンを押すと点灯し操作ができるようになります。

使いかた

ふたの開閉

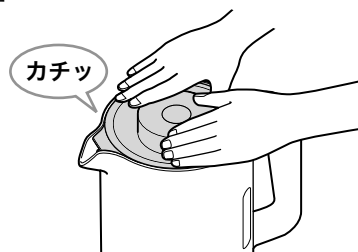
開けかた

ふた開閉つまみをつまみながら、上に持ち上げる



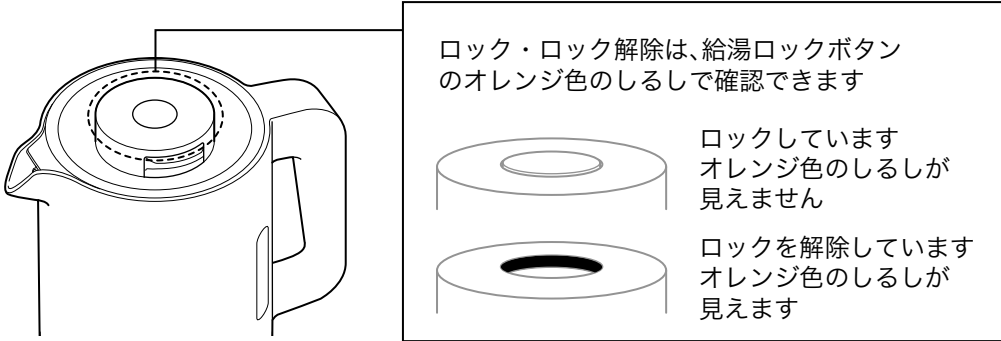
閉めかた

ふたと本体の注ぎ口の向きを合わせて、“カチッ”と音がして4か所のツメがはまるまでしっかり上から押す



給湯ロックボタンの使いかた

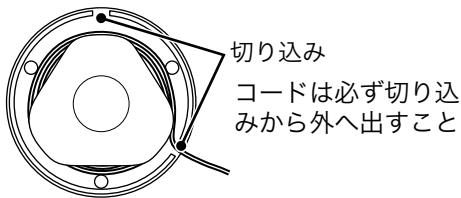
給湯ロックボタンが上がっているときは注ぎ口から湯が出ません。
押し込むとオレンジ色のしるしが見えてロックが解除され、注ぎ口から湯を注ぐことができます。



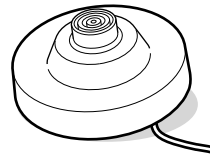
電源コードの長さ調節

電源コードを電源プレートの底面に巻き付け、長さを調節します。

電源プレート裏面



× コードの上に乗り上げた状態で使用しない



準備する

初めてお使いになるときや、長期間お使いにならなかった場合は、一度湯を沸かし、注ぎ口から湯を捨ててご使用ください。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

電源プレートの電源プラグをコンセントに差し込みます。

ご注意

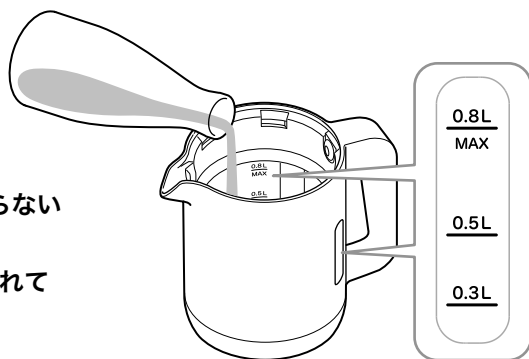
- 電源プレートは、清潔で平らな場所に置いてください。

2 ふたを外し、水を入れる

別容器から本体に水を注ぎ入れます。

ご注意

- 本体に水を入れるときは、本体外部に水がかからないように注意してください。
- 電源プレートから本体を下ろした状態で水を入れてください。
- 流し台などのぬれた場所に置かないでください。
底面がぬれて故障の原因になります。
- 満水目盛(MAX 0.8 L)以上の水は入れないでください。
ふきこぼれの原因になります。
- 水以外のものを入れないでください。

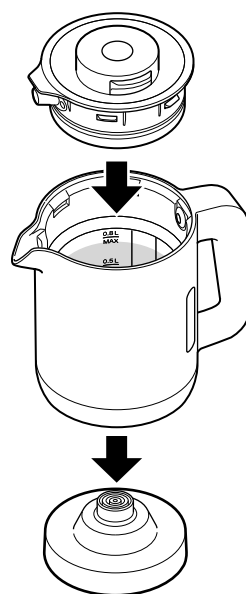


3 ふたを取り付け、電源プレートにのせる

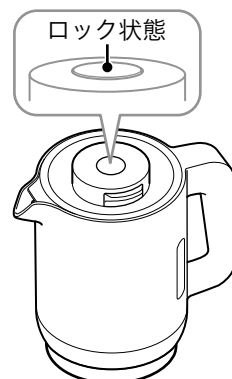
ふたを“カチッ”と音がするまで確実に押し込みます。

ご注意

- ふたがきちんと閉まっていることを確認してください。
ふたがきちんと閉まっていないと、湯が沸いても電源が切れないことがあります。
- コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしないでください。
たこ足配線などで定格を超えると、発熱・発火・火災・感電・故障の原因になります。



4 給湯ロックボタンがロック状態になっていることを確認する



本機でできること

本製品には4つの湯沸かしモードがあり、自動的に5時間保温します。(沸とうモード除く)
 温度調節可能なモードでは、60℃～90℃(白湯モードは60～70℃)まで5℃単位で温度を設定することができます。

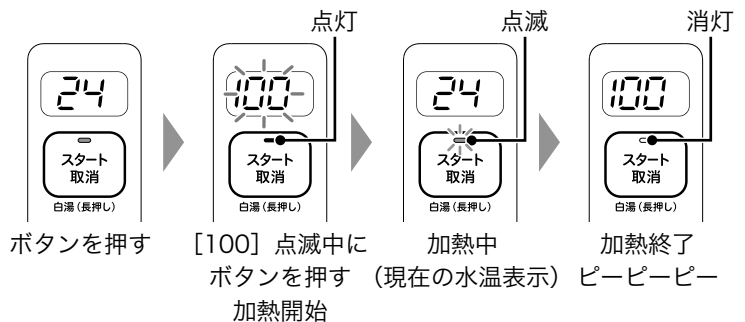
モード	動作	こんなときに	温度調節	保温 (5時間)	操作の流れ		
沸とうモード	水を沸とうさせる	すぐに沸とうしたお湯を使うとき	不可 (100℃固定)	しない	スタート 取消 白湯(長押し) を押す	スタート 取消 白湯(長押し) を押して、 加熱スタート	
白湯モード	2回沸とう*させたあと、5時間後に設定温度まで再加熱し、保温する	起床してすぐに白湯を飲みたいとき	可能 60/65/70℃	する	スタート 取消 白湯(長押し) を長押しする		
温度調節モード	設定温度まで加熱し保温する(沸とうはさせません)	お茶やコーヒーなど飲み物に合った最適な温度でお湯を沸かしたいとき	可能 60/65/70/75/ 80/85/90℃	する	温度調節 煮沸(長押し) を押す	<設定温度を変更する> 温度調節 煮沸(長押し) を押して、 温度を選ぶ	スタート 取消 白湯(長押し) を押して、 加熱スタート
煮沸モード	2回沸とう*させたあと、設定温度で保温する	乳児のミルク作りなど、沸とうさせたお湯を冷まして使いたいとき	可能 60/65/70/75/ 80/85/90℃	する	温度調節 煮沸(長押し) を長押しする		

*2回沸とう…100℃まで加熱後、95℃に下がったら再度100℃まで加熱します。2回沸とうさせることにより、水道水に含まれるカルキを除去します。

水を沸とうさせる(沸とうモード)

《スタート/取消》ボタンを2回押す

1回ボタンを押すと[100]が点滅し、もう一度ボタンを押すとすぐに加熱が始まります。加熱中は《スタート/取消》ランプが点滅します。加熱中は温度表示が徐々に上がり、100℃になると沸とうが完了します。保温はされません。

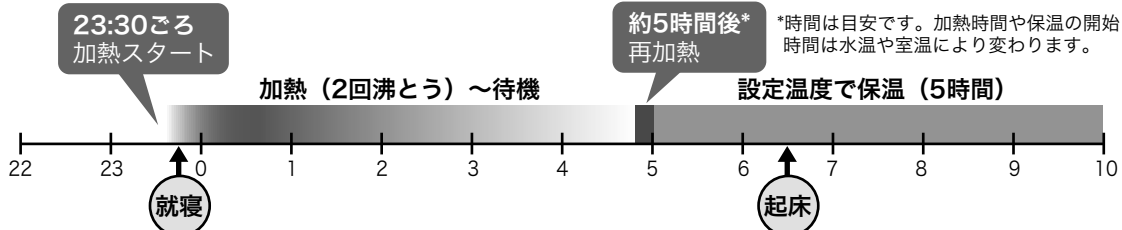


白湯を作る(白湯モード)

白湯とは 一度、沸とうさせたお湯を50℃～60℃程度冷ましたものをいいます。

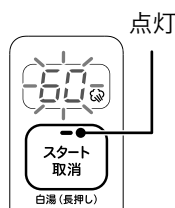
白湯モードの使用例

就寝前に加熱スタートすれば、起床後すぐに白湯が飲めます。



1 《スタート/取消》ボタンを長押し(約3秒)する

前回設定した温度が表示され、煮沸マーク(☼)が点灯します。
前回と同じ温度の白湯を作る場合は手順3に進んでください。



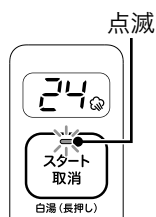
2 (設定温度を変更する場合) 《温度調節》ボタンを押す

ボタンを押すたびに60℃→65℃→70℃の順に切り替わります。

3 《スタート/取消》ボタンを押す

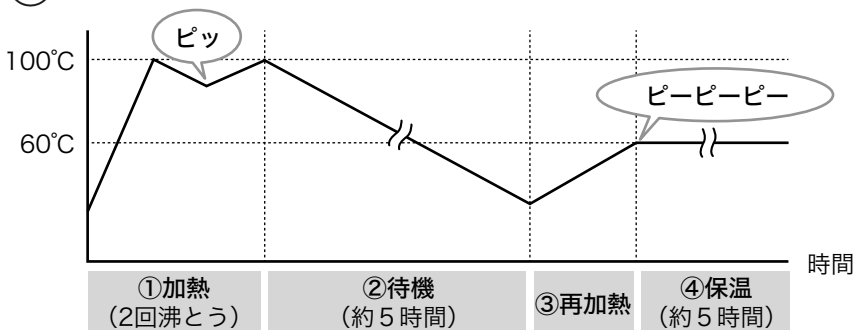
加熱が始まります。(加熱スタート)

加熱中は《スタート/取消》ランプが点滅し、現在の水温が表示されます。



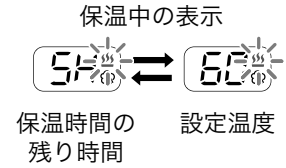
▶ 白湯モードの加熱の流れ(設定温度：60℃の場合)

- ① 100℃まで加熱後、95℃に下がったら再度100℃まで加熱します。
- ② 加熱を停止し、約5時間待機します。
- ③ 設定温度(60℃)まで再加熱します。
- ④ 設定温度(60℃)で約5時間保温します。



▶ 保温中は

《スタート/取消》ランプが点灯、保温マーク(☁)が点滅し、保温時間の残り時間と設定温度を切り替えながら表示します。

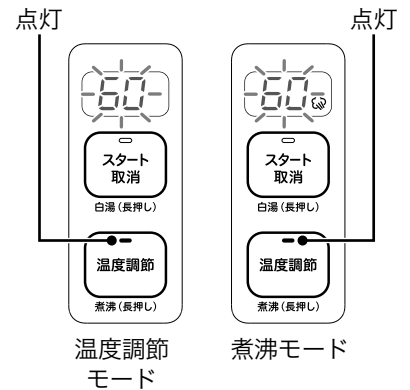


好みの温度で湯を沸かす(温度調節モード・煮沸モード)

1 機能を選ぶ

- 温度調節モード：《温度調節》ボタンを押す
《温度調節》ランプが点灯します。
- 煮沸モード：《温度調節》ボタンを長押し(約3秒)する
《温度調節》ランプが点灯し、
煮沸マーク(☁)が点灯します。

前回設定した温度が表示されます。



2 《温度調節》ボタンを押す

ボタンを押すたびに下記の順に切り替わります。

60°C→65°C→70°C→75°C→80°C→85°C→90°C

3 《スタート/取消》ボタンを押す

加熱が始まります。(加熱スタート)

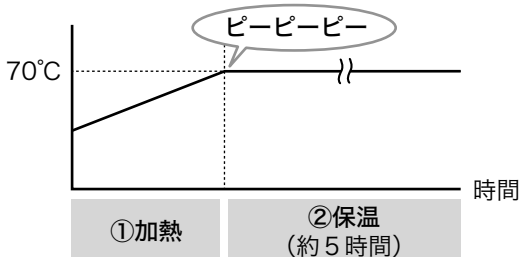
加熱中は《スタート/取消》ランプが点滅し、現在の水温が表示されます。



(煮沸モードの場合)

▶ 温度調節モードの加熱の流れ(設定温度：70°Cの場合)

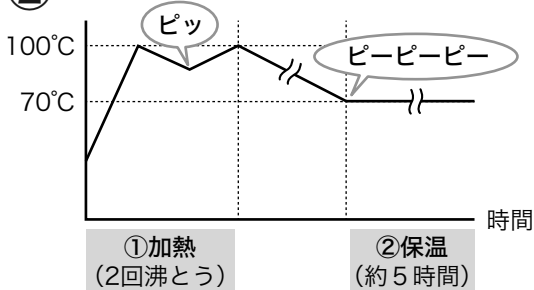
- ① 設定温度(70°C)まで加熱します。
- ② 設定温度(70°C)で約5時間保温します。



| 使いかた

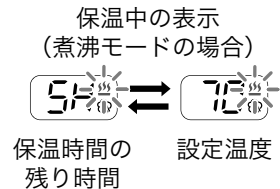
▶ 煮沸モードの加熱の流れ(設定温度:70°Cの場合)

- ① 100°Cまで加熱後、95°Cに下がったら再度100°Cまで加熱します。
- ② 設定温度(70°C)で約5時間保温します。



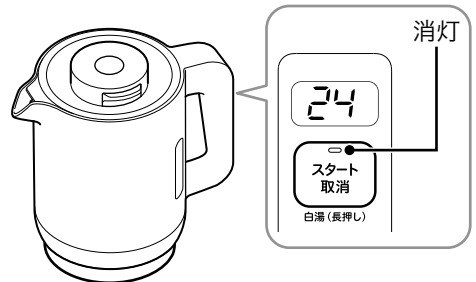
▶ 保温中は

《スタート/取消》ランプが点灯、保温マーク(☁)が点滅し、保温時間の残り時間と設定温度を切り替えながら表示します。



加熱・保温を取り消す

《スタート/取消》ボタンを押すと、加熱・保温を停止します。
《スタート/取消》ランプが消灯します。



ご注意

- 湯沸かし中は、給湯ロックボタンを解除しないでください。
注ぎ口から蒸気が出て、やけどの原因になります。
- 湯沸かし中は、ふたを開けたり、手や顔を近づけたりしないでください。
やけどの原因になります。
- 湯沸かし中や湯沸かし完了直後は、注ぎ口・本体接続部が非常に高温になりますので、触れないようにしてください。
- やけどの原因になりますので、以下の事項を守ってください。
 - ・注ぎ口にふきんをかけない
 - ・湯沸かし中は湯を注がない
 - ・湯沸かし中は移動させない

空だき防止機能について

本体内部が空の状態加熱または保温すると、過熱による事故や故障を防ぐために空だき防止機能が働き、[C1]が表示され、ブザーが鳴り、ヒーターの加熱を停止します。

▶ 空だき防止機能が働いたときは

- ① 本体を電源プレートからはずす
[C1]の表示が消えます。
- ② 本体を十分に冷ます
[C1]の表示が消えないときは故障の可能性があります。サポートセンターまでお問い合わせください。

湯を注ぐ

1 《スタート／取消》ランプが点滅していないことを確認する

《スタート／取消》ランプが加熱中は点滅、保温中は点灯します。加熱・保温が終了すると、ランプが消灯します。

2 給湯ロックボタンを押し、ロックを解除してからゆっくりと本体を傾けて湯を注ぐ



ご注意

- 一気に深く傾けて注がないでください。湯がこぼれ、やけどの原因になります。

3 本体を電源プレートにのせる

保温中に本体を電源プレートから持ち上げて3分以内であれば保温を継続します。

ご注意

- 保温中に本体内部が空になった場合は必ず《スタート／取消》ボタンを押して、保温を終了してください。

4 給湯ロックボタンを押してロック状態にする

おしらせ

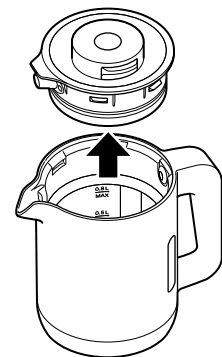
- 使用後しばらくすると、“カチン”と音がすることがありますが、これは熱せられたプラスチックや金属部分が冷めるときに発生する音ですので、製品に問題はありません。
- 蒸気が本体の底や取っ手の下から水滴となって垂れることがありますが、故障ではありません。

残り湯を捨てる

使用後は湯を残さず、本体内部を空にしてください。

1 ふたを外す

2 本体をゆっくりと傾けて湯を捨てる



メモリー機能について

沸とうモード以外の設定温度はメモリーされます。

お手入れ

ご注意

- お手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 本体が十分に冷めてからお手入れしてください。やけどの原因になります。
- 研磨剤入り洗剤・磨き粉・たわし・ナイロンや金属製のたわしは使わないでください。表面を傷つける原因になります。
- 台所用中性洗剤以外の洗剤・シンナー・ベンジンは使わないでください。表面を傷つける原因になります。
- 食器洗い乾燥機・食器乾燥機は使わないでください。

ふた

- やわらかいふきんで拭きます。
- 汚れがひどいときは、固く絞ったぬれふきんに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。

▶ ふたパッキン・弁パッキン

綿棒で汚れを取ります。

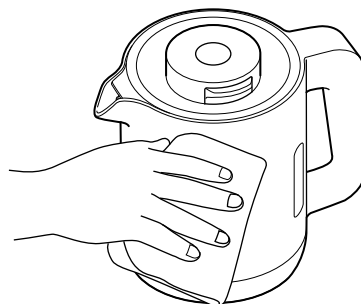
本体外部・電源プレート

ご注意

直接水をかけたり、丸洗いをしたりしないでください。

▶ 本体外部・電源プレートのプラスチック部分

- やわらかいふきんで拭きます。
- 汚れがひどいときは、固く絞ったぬれふきんに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。



▶ 本体接続部・電源プレート接続部

乾いたやわらかいふきんで拭きます。



本体内部

▶ 通常のお手入れ

水でよくすすぎます。その後、自然乾燥でよく乾かしてください。

ご注意

本体内部の温度センサーを傷つけないでください。温度センサーに強い力を加えると、温度をうまく検知できないなど故障の原因になります。

▶ 蒸気パッキン

綿棒で汚れを取ります。パッキンを押し込んだり、異物が付着しないようにしてください。

おしらせ

- お使いになるうちに、水に含まれているミネラル成分(カルシウム・マグネシウム・鉄分など)が本体内部に付着します。
 - ・ 虹色・黒色・乳白色などの変色
 - ・ 赤さび状の斑点
 - ・ 白い膜状の浮遊物
 これは湯あかといわれるもので衛生上問題はありませんが、汚れが目立ってきたら、クエン酸洗浄を行って汚れを取り除いてください。
- ミネラルウォーターやアルカリイオン水などミネラル成分を多く含む水をお使いになると、湯あかが付着しやすくなりますので、こまめにクエン酸洗浄を行ってください。

▶ クエン酸洗浄(汚れがひどいとき)

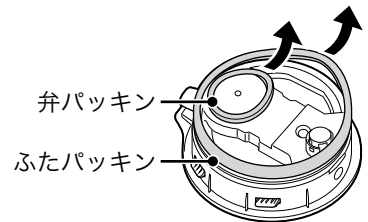
- ① 水を満水目盛(MAX 0.8 L)まで入れ、クエン酸(30g程度)を入れてかき混ぜる
- ② ふたを閉め、給湯ロックボタンがロック状態になっていることを確認し、《スタート/取消》ボタンを押して沸とうさせる
その後、約2時間放置する
- ③ ふたを外して湯を捨て、水でよくすすぐ。汚れが残っているときは、やわらかいスポンジでこすり落とす
- ④ クエン酸のにおいが気になるときは、水を満水目盛(MAX 0.8 L)まで入れて再度沸とうさせ、湯を捨て、水でよくすすぐ

ふたパッキン・弁パッキンの交換

ふたパッキン・弁パッキンが白く変色してきたら、新しいパッキンと交換してください。白く変色したまま使用すると、すき間から湯や蒸気が漏れ出て、やけど・故障の原因になります。

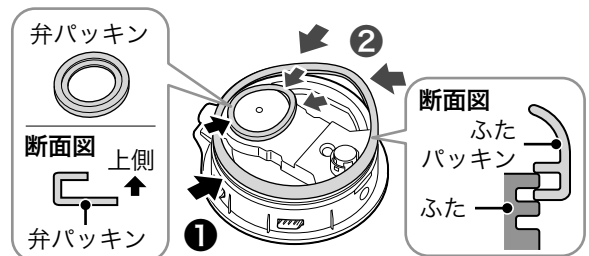
▶ ふたパッキン・弁パッキンの取り外しかた

ふたをしっかり押さえ、ふたパッキン・弁パッキンを外します。



▶ ふたパッキン・弁パッキンの取り付けかた

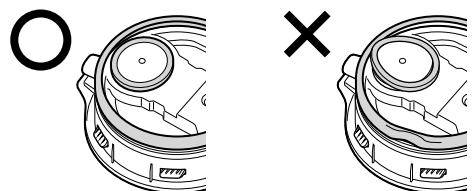
- ① 向きに注意して、ふたまたは弁の外周にパッキンをひっかけます。
弁パッキンは、給湯ロックボタンを押して弁を浮かせながらひっかけてください。
- ② パッキン全周を図の通りはめ込みます。



ご注意

パッキンが波打っていたり、外れた状態で使用しないでください。

すき間から湯が流れ出てやけどの原因になります。



保管するときは

お手入れ後、よく乾かしてから、お買い上げ時の包装ケースに入れるか、ポリ袋などで密封して保管してください。

故障かなと思ったら

— 修理を依頼する前にご確認ください —

Q1 作動しない。 沸とう前に止まってしまう。

- 電源プラグが抜けていませんか。
電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
- 本体が電源プレートに正しくセットされていますか。
本体を電源プレートの上に正しくセットしてください。
- 本体接続部および電源プレート接続部に金属片やごみが付着していませんか。
電源プラグをコンセントから抜き、本体接続部や電源プレート接続部に付着している金属片やごみを取り除いてください。
- 水が入っていない状態で加熱していませんか。
水が入っていない状態で空だきをすると、空だき防止機能が作動して、自動的にヒーターの加熱を停止します。いったん本体を電源プレートからはずし、本体の熱を十分に冷ましてから水を入れて、湯を沸かしてください。

Q2 沸とうが止まらない。

- ふたがきちんと閉まっていますか。
ふたは“カチツ”と音がするまでまっすぐに押し込んでください。
- 給湯ロックボタンを解除状態にしていませんか。
給湯ロックボタンが解除状態になっていると、湯が沸いても電源が切れない場合があります。

Q3 注ぎ口から湯がふき出る。

- 満水目盛(MAX 0.8 L)以上の水を入れていませんか。
水は満水目盛(MAX 0.8 L)以下にしてください。
- 給湯ロックボタンを解除状態にしていませんか。

Q4 湯沸かし中の音がいつもより大きい。

本体内部に湯あかなどが付着して汚れていませんか。湯あかなどの汚れがひどくなると、湯沸かし中の音が大きくなります。クエン酸洗浄を行ってください。

➔ **15ページ**

Q5 湯に白い膜状のものが浮遊している。

ミネラルウォーターやアルカリイオン水をお使いになっていませんか。または、お手入れなしで長期間お使いになっていませんか。
水に含まれるカルシウムや鉄分などのミネラル成分によるもので、本体内部の腐食や異常によるものではありません。ただし、ミネラルウォーターやアルカリイオン水などミネラル成分が多い水をお使いになると、湯あかが付着しやすくなります。汚れがひどい場合は、クエン酸洗浄を行ってください。➔ **15ページ**

Q6 本体内部に赤さび状の斑点や虹色などの変色がある。

ミネラルウォーターやアルカリイオン水をお使いになっていませんか。または、お手入れなしで長期間お使いになっていませんか。
水に含まれるカルシウムや鉄分などのミネラル成分によるもので、本体内部の腐食や異常によるものではありません。ただし、ミネラルウォーターやアルカリイオン水などミネラル成分が多い水をお使いになると、湯あかが付着しやすくなります。汚れがひどい場合は、クエン酸洗浄を行ってください。➔ **15ページ**

Q7 湯を沸かすとプラスチック臭がする。

使い始めのうちは、本体のプラスチック部分が熱で温められることにより、プラスチック特有のにおいがすることがあります。お使いになるうちに、においは少なくなりますが、気になる場合は1～2回湯で洗浄してからお使いください。

Q8 本体の底や取っ手の下から水滴が垂れる。

蒸気が本体の底や取っ手の下から水滴となって垂れることがあります。故障ではありません。

**Q9 注ぐときや、ふたを開閉する
ときに“カラカラ”と音がする。**

万一転倒したときに、湯が流出するのをおさえるための
おもりが動く音です。故障ではありません。

**Q10 使用后しばらくすると、“カチン”
と音がする。**

熱せられたプラスチックや金属部分が冷めるときに発生
する音です。故障ではありません。

こんな表示が出たときは

下記の表示が出てブザーが鳴ったときは、電源プレートから本体を持ち上げると表示が消えます。

C1	空だき防止機能が働き、自動的にヒーターの加熱を停止しました。➡「空だき防止機能について」 12ページ 本体を十分に冷ましても[C1]の表示が消えないときは故障の可能性があります。サポートセンターまでお問い合わせください。
C2	連続使用などで高温になりすぎた際に表示されます。 本体の熱を十分に冷ましてから水を入れて、湯を沸かしてください。
C3	高地で使用した際に沸とう時に100°Cまで上がらない場合に表示されます。
EX	(Xは1～3の数字) 故障の可能性があります。サポートセンターまでお問い合わせください。

仕様

品名(型番)	電気ケトル(OB-SYK08)
サイズ	約222(W)×201(H)×143(D) mm (本体のみ) 約222(W)×222(H)×143(D) mm (電源プレート含む)
質量	約1.0 kg (本体のみ) 約1.2 kg (電源プレート含む)
定格容量	0.8 L
電源コード	約1.3 m
電源	交流100 V 50/60 Hz
消費電力	1,300 W
生産国	中国

特定地域(高地、厳寒地など)では、所定の性能が確保できないことがあります。

重要

この製品は、日本国内用に設計・販売しています。日本国外では使用できません。海外での修理や部品販売などのアフターサービスも対象外となります。

部品・消耗品

劣化・消耗したり、紛失してしまったときは、お買い上げの販売店またはインターネットでご注文いただけます。詳しくは以下のホームページをご確認ください。

<https://siroca.jp/>

プラスチック部品はご使用にともない、傷んだり摩耗したりします。「※」がついている部品は定期的に確認し、傷みがひどい場合は新しいものと交換してください(有料)。

部品名	部品コード
ふた(パッキン2個付き)	OB-SYK08-BP
ふたパッキン※	SK-A100-LP
弁パッキン※	SK-A100-SP

保証とアフターサービス

— 必ずお読みください —

▶ 保証書(裏表紙)

裏表紙に添付しています。お買い上げ日と販売店名の記入をご確認いただき、販売店からお受け取りください。保証書はよくお読みになり、大切に保管してください。

▶ 修理を依頼される時

取扱説明書の内容をご確認いただき、異常のあるときは、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、またはシロカサポートセンターにお問い合わせください。

保証期間中(お買い上げ日から1年未満)の修理

保証書の規定により、無料で修理いたします。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

保証期間が過ぎている(お買い上げ日から1年以上)修理

修理によりお使いになれる製品は、お客様のご要望により有料で修理いたします。

▶ 保証期間

お買い上げ日から1年間です。消耗部品は保証期間内でも有料とさせていただきます。

▶ 補修料金のしくみ

補修料金は技術料(故障した製品の修理および部品交換などにかかる作業料金)と部品代(修理に使用した部品の代金)などで構成されています。

▶ 補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造終了後5年です。その製品の機能を維持するために必要な部品を性能部品といえます。

▶ 補修部品について

補修部品は部品共通化のため、一部仕様や外観色などが変更となる場合があります。

お客様ご自身での修理は大変危険です。絶対に分解したり手を加えたりしないでください。

長年ご使用の製品の点検を!

- 長年ご使用の製品では、電気部品の経年劣化による発煙・発火のおそれがあります。
- ご使用前に必ずご確認ください、次のような症状がある場合は、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、またはシロカサポートセンターにご連絡ください。点検・修理費用などはシロカサポートセンターにご相談ください。
 - 電源プラグ・コードが異常に熱くなる
 - コードに傷がついたり、触れると通電したりしなかったりする
 - 本体が変形したり、異常に熱い
- 定期的に「安全上のご注意」や使いかた、ご注意を確認してお使いください。誤った使いかたや長年のご使用による熱・湿気・ほこりなどの影響により、部品が劣化し、故障や事故につながることもあります。
- 電源プラグやコンセントにたまっているほこりは取り除いてください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

- シロカ株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からの対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
- 次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
 - (a) 修理やその確認、業務を委託する場合
 - (b) 法令の定める規定に基づく場合

保証書

持込修理

本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本書は大切に保管してください。
お買い上げ日から保証期間中に故障が発生した場合は、本書と製品を併せた状態で、お買い上げいただいた販売店、またはシロカサポートセンターまでお問い合わせください。

品名：電気ケトル	お買い上げ日： 年 月 日
型番：OB-SYK08	製造番号：
保証期間：お買い上げ日より本体1年間	販売店：店名・住所・電話
お客様： ふりがな	
お名前	
ご住所	
お電話	お願い：未記入の保証書の場合、お買い上げ日を証明するレシート、送り状などを必ず添付してください。証明がない場合、保証対象にならない場合があります。

この保証書は、本書記載内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い上げ日から保証期間中に、取扱説明書、本体ラベル、その他の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容に基づき弊社が無料修理いたしますので、製品と本保証書をご用意のうえ、お買い上げいただいた販売店、またはシロカサポートセンターまでご依頼ください。
ご転居、ご贈答などで、お買い上げいただいた販売店に修理が依頼できない場合は、シロカサポートセンターまでご連絡ください。
なお食品の補償など製品の故障以外の保証はいたしかねます。
保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

- 保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
 - 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
 - お買い上げ後の取り付け場所の移動、落下、引っ越し、輸送などによる故障または損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、ガス害、異常電圧、その他の外部要因による故障または損傷。
 - 車両、船舶に搭載して使用された場合に生じた故障または損傷。
 - 一般家庭用以外（例えば業務用の長時間使用など）に使用された場合の故障または損傷。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。お買い上げ日を証明するレシート、送り状などの証明書がない場合。通信販売、インターネットでお買い上げ時、ご注文確認メールなどで購入履歴を確認できるものの提示がない場合。
 - 樹脂加工やメッキの摩耗や打痕、プラスチック部の損傷。（かすり傷、へこみなどを含まず）
 - 腐食による故障、及び損傷。
 - 消耗部品の交換。
 - お買い上げの製品が、有償無償を問わず譲渡されたもの（中古品）であった場合。
- 修理に際して再生部品、代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理、処分させていただきます。
- 本書に基づく無料修理（製品交換を含みます）後の製品については、最初のお買い上げ時の保証期間が適用されます。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

シロカ株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2丁目4番地 東京建物神保町ビル5F

19090014

お客様サポート

二次元コードからもアクセスできます

故障・修理のお問い合わせ、修理代金の目安、
使いかた・お手入れなどのよくあるご質問はこちら

シロカ サポート

検索



部品・消耗品のご購入はこちら



シロカサポートセンター ナビダイヤル 0570-001-469 受付時間：10:00～17:00（土日祝、弊社指定休業日を除く）
非通知設定の方は「186」をつけて発信番号通知のご協力をお願いします。サポートセンターの電話番号、住所は予告なく変更することがあります。